

スズメバチ誘引捕獲駆除

東洋産業だより

Vol. 199
2020年8月号

いよいよ夏本番となり、見ただけに怖いハチの数も増える時期となりました。皆様の周りでも目にする機会が増えているのではないのでしょうか。

駆除の対象となることが多いスズメバチ類の多くは、1匹の女王バチを中心に、規模によっては数千匹もの働きバチからなる、社会性を持つハチです。巣の始まりは、女王1匹から始まります。女王バチは秋に羽化し、交尾して越冬した後、春から営巣場所を求めて飛び始めます。巣作りを始めて最初の働きバチが羽化するまでは、一匹で巣材や餌を探しに外を飛び回りますが、その後は巣の外へ出ることはありません。また、ほとんどの働きバチは昼間に外へ働きに出て、日が落ちる頃に巣に帰ってきます。巣に帰ってきた頃を見計らって、ハチがたくさん中に入っている巣ごと取ってしまうことが、根本的かつ素早く解決できる駆除方法になります。

作業になるため、専用の装備やノウハウを持っていない人にはお勧めできません。

専門家に依頼し、巣を取ってしまうことが最も効果的な方法ですが、「巣を取る」ことができないけれど、飛び回っているハチを何とかしたい」「たまたま巣が作られることがあるので、未然に防ぎたい」といった場合も多くあると思います。そういった場合は、スズメバチ誘引捕獲器を使う方法がおすすめです。スズメバチ誘引捕獲器は、一度虫が入ると出てきにくい構造の容器に、スズメバチを誘引する液剤が入ったものです。敷地周りのフェンスや樹木に吊るしておくことで、飛んで来たスズメバチを捕獲し、ハチと接触する機会を減らすことができます。特に、新女王が飛び回る4〜6月に設置することで、早めに新女王を捕獲し、付近の巣作りを未然に防ぐことが期待できます。ただし、誘引捕獲は近くに来るハチを捕まえるものなので、ゼ口にできるかは運次第で、効果が出るのにも時間がかかりま

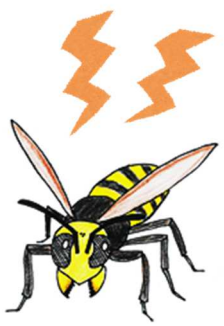


図1 スズメバチ誘引捕獲器



図2 設置した捕獲器

す。さらに、誘引剤の効果は約1か月程度で、捕獲器を交換する手間も必要になります。スズメバチは身近によく見かけるものですが、刺咬被害が多く、国内では年間約30人も死者を出している危険な虫ですので、まずノウハウのある専門家にお問い合わせください。



今月の豆知識：シビアなミツバチの世界



ハチは、大きな巣でたくさん集まって生活している印象がある方も多いと思いますが、実はその内情は意外と厳しいものです。

例えば、ミツバチの幼虫は、働きバチによって大事に世話をされている印象があると思います。しかし、病気になってしまったものは、容赦なく巣の外へ捨てられてしまうのです。また、繁殖のためだけに存在するオスも、秋になるとその仕事が終わるため、仕事をこなせなかった役立たずのオスは捨てられてしまいます。一方、厳しい世界とは無縁そうな女王の一生も過酷なものです。女王は王台と言われる女王専用の部屋で育ちます。この王台は一度におおよそ10個程度作られますが、女王は一匹しか入れないため、女王候補で戦った末に生き残ったものが新しい女王となります。さらに、女王は働きバチを従える働きのある女王物質をもっていますが、加齢で薄れていくことで、寿命も近くなると働きバチから女王と認識されなくなり、攻撃されるようになります。女王の衰退は巣の衰退へ繋がるため、巣に新しい女王を据えて、古い女王は出ていくことになるのです。

このように、ミツバチは娘が母親を攻撃したり、兄弟姉妹で争ったりと案外シビアな世界で生きています。これも生存戦略の内ではありますが、ヒトの立場から見ると残酷で厳しい世界だと感じる方は多いのではないのでしょうか。ヒトの立場からこういった生き物の世界をのぞいてみると、印象がかわって面白いかもしれませんね。



東洋産業株式会社

本社 岡山市北区新屋敷町3-1-19-20
TEL 086-1241-8080
FAX 086-1241-8094
拠点 大阪・姫路・岡山・倉敷・福山・広島
高松・松山・金沢

www.to-yo-s.co.jp
(バックナンバー掲載中)